

デジタルアーカイブ学会「学術賞(研究論文)」を受賞しました(2020/3/7)

テーマ：デジタルアーカイブ

URL：<http://digitalarchivejapan.org/awards/2ndawards/2ndawardee/2nddetail>

デジタルアーカイブ学会は、21世紀日本のデジタル知識基盤構築のために、デジタルアーカイブに関わる関係者の経験と技術を交流・共有し、その一層の発展を目指し、人材の育成、技術研究の促進、メタデータを含む標準化に取り組む学会として、2017年5月に設立されました。学会賞は、2019年3月に創設され、今回で2回目となります。学術賞は、今回から新たに創設された賞となります。

この度、デジタルアーカイブ学会の第2回学会賞「学術賞(研究論文)」について、柴山明寛准教授(情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野)及び北村美和子(東北大学大学院工学研究科建築学専攻 博士課程後期)、ボレー セバスチャン准教授(情報管理・社会連携部門 国際研究推進オフィス)、今村文彦教授(災害リスク研究部門 津波工学研究分野、兼務：情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野)の4名の連名で、「東日本大震災の事例から見えてくる震災アーカイブの現状と課題」と題した研究論文が受賞しました(2020年3月17日決定)。本論文は、同学会の査読論文として初めて採択されたものとなります。

受賞論文は、東日本大震災で様々な機関・団体が構築した震災デジタルアーカイブの事例と変遷についてまとめると共に、自治体における震災デジタルアーカイブの公開内容や構成要素を明らかにしました。さらに、東日本大震災の震災デジタルアーカイブの全体を通して課題を示し、今後の震災デジタルアーカイブのあり方について論じました。特に記録の収集範囲や利活用へのハードルなどについては、震災デジタルアーカイブのみならず、デジタルアーカイブ全体の状況への指摘としても正着なものといえ、デジタルアーカイブの学術的検討をより推し進める重要な論考として高く評価されました。

題目：東日本大震災の事例から見えてくる震災アーカイブの現状と課題

著者：柴山 明寛，北村 美和子，ボレー セバスチャン，今村 文彦

デジタルアーカイブ学会誌，2018年2巻3号，p. 282-286

DOI：https://doi.org/10.24506/jsda.2.3_282

文責：柴山明寛，ボレー セバスチャン，今村文彦(情報管理・社会連携部門)